

山口 誓子(1901~1994)

京都生まれ。幼少期に家庭の事情で外祖父に預けられ東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町（現在の渋谷区）に住んでいたこともある。

高浜虚子に師事し、昭和初期に雑誌「ホトギス」で水原秋桜子、高野素十、阿波野青畝とともに「ホトギスの四S」と呼ばれるようになる。

戦後は「天狼」を主宰し現代俳句を牽引した。



『星の文学館』

和田 博文／編 筑摩書房(ちくま文庫) 2018

それは天の贈り物？川端康成、稲垣足穂、金子光晴、寺山修司、三浦しをん、倉橋由美子、山口誓子、水木しげる、宮沢賢治など、心に自分の星を抱いて空を見上げる作家たちの全35篇を収録した星の文学アンソロジー。



『星戀』

山口 誓子／俳句 野尻 抱影／随筆

中央公論新社(中公文庫) 2017

星の和名収集研究で知られる天文民俗学者・野尻抱影。戦後の俳句界を牽引した俳人・山口誓子。星を愛する2人が天空を眺めながら交わしあった随想と俳句を収めた珠玉の随想句集。

「渋谷読書人」は

渋谷に関わる人全てに向け、おすすめ本の情報を発信していく、渋谷区立図書館が発行する定期刊行物です。

渋谷読書人 2022年12月・2023年1月号

発行 / 編集 渋谷区立図書館

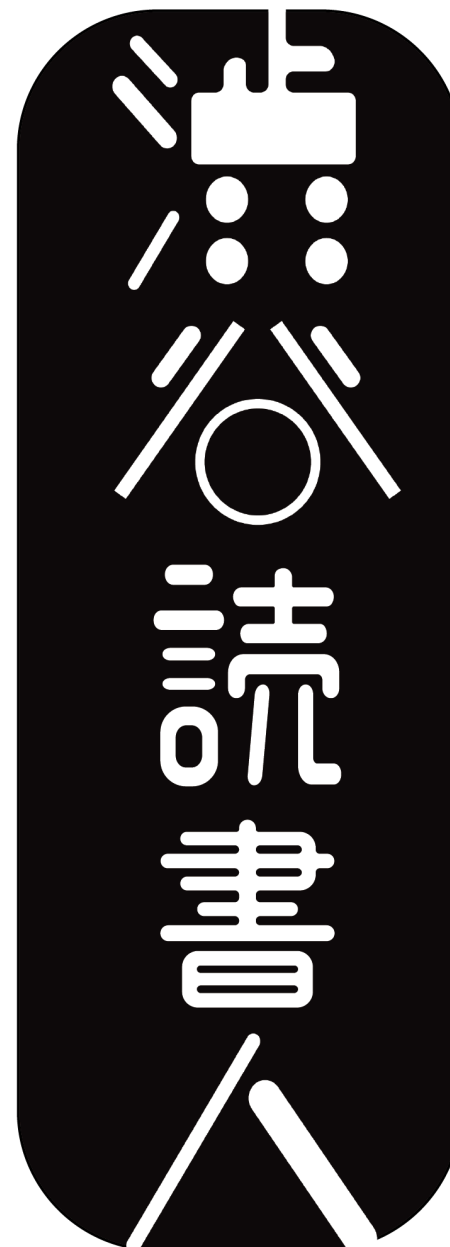
株式会社図書館流通センター

発行日 2022年12月

渋谷区立中央図書館

電話 3403-2591

住所 渋谷区神宮前1-4-1



十七音の奇跡

～どんな思いも風景もわずか十七音で伝えてしまう、この素晴らしき俳句の世界～

『俳句はいかが』

五味 太郎／作・絵 岩崎書店 1994

絵本作家・五味太郎の俳句愛がいっぱい詰まった絵本。数々の名句に対する太郎の鑑賞はどれも秀逸。また、蕪村や一茶の句に交じって出てくる太郎の句もいい。俳句が何であるかを知りたい人に、ぜひ手にとってもらいたい一冊。

“6Bの鉛筆で書く手紙かな”(太郎)

『芭蕉の誘惑』

嵐山 光三郎／著 JTB 2000

松尾芭蕉が好きで好きでたまらない著者が、野ざらし紀行、笈の小文、奥の細道など、芭蕉が残した紀行文全てのルートを実際にたどった旅の記録。芭蕉に関する膨大な知識と情報を盛り込みながら、現代の旅のエッセイにもなっている。嵐山光三郎ならではの芭蕉本。

『漱石・子規往復書簡集』

和田 茂樹／編 岩波書店(岩波文庫) 2002

漱石と子規の友情はつとに有名だが、漱石にとって子規は俳句の先生でもあった。本書には、漱石に乞われた子規が漱石の句を添削している手紙が数多く収録されている。巻末には、倫敦で子規の訃報に接した漱石の句も掲載。

“手向くべき線香もなくて暮れの秋”(漱石)

『赤とんぼ』

渥美 清／著 森 英介／編 本阿弥書店 2009

「男はつらいよ」の寅さんで知られる渥美清は生前、誰の手ほどきも受けず独学で俳句を詠んでいた。俳号は「風天(ふうてん)」。本書は、没後に残されていた句を集めて刊行されたもの。型に捉われない自由な作風が寅さんらしい。

“コスモスひよろりふたおやもういない”(風天)



『芸人と俳人』

又吉 直樹／著 堀本 裕樹／著 集英社 2015

芸人・又吉直樹が、気鋭の俳人・堀本裕樹に弟子入り。定型や季語といった俳句のイロハを教わっていく。堀本の指導の分かりやすさ、教わる又吉の素直さとセンスの良さが印象的な、楽しく読める俳句の入門書。

“秋高しハウリングする拡声器”(直樹)



『海も暮れきる』『吉村昭自選作品集 第10巻』より

吉村 昭／著 新潮社 1991

“咳をしても一人”で知られる俳人・尾崎放哉の晩年を綴った傑作。酒に溺れ、傲慢で、人々に疎まれた放哉は、やがて病に臥せ、小豆島の粗末な庵で壮絶な最期を迎える。物語の終盤、今際の数日間の描写は圧巻。

“やせたからだを窓に置き船の汽笛”(放哉)



『句々快々』

矢崎 泰久／著 本阿弥書店 2014

和田誠や永六輔、黒柳徹子といった著名人たちによる伝説の句会「話の特集句会」のほぼ全記録。俳句に関しては全くの素人である面々が、仲間をあとと言わせたい一心で迷句・名句を次々にひねり出す。仲のいい者たちが集まって夢中になって創作している雰囲気がとても愉快。



『俳諧でぼろ儲け』

田中 啓文／著 集英社(集英社文庫) 2017

人気の時代小説シリーズ(浮世奉行と三悪人)の第2弾。ひよんなことから芭蕉の辞世の句が見つかったのを発端に騒動が巻き起こる。横町奉行の雀丸とその仲間たちが例によってあちこち引っ掻き回しながら、最後は事件解決にたどり着く、相変わらずのゆるゆるミステリー。軽妙な会話は今作も健在。

気になる新着コーナー



『日本の美しい水族館』

銀鏡 つかさ／写真・文 エクスナレッジ 2022

千歳水族館、サンシャイン水族館、マリニピア日本海、四国水族館…。44の水族館を全国から厳選。レトロな空間美から最新技術の結晶まで、生きものを知るために趣向を凝らした多種多様な空間を美しい写真で紹介する。



『小さなことばたちの辞書』

ピップ・ウィリアムズ／著 最所 篤子／訳 小学館 2022

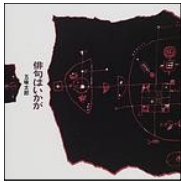
辞典編纂者の父が勤める写字室で、エズメは「ボンドメイド(はしため)」という単語が書かれたカードを見つけ…。女性参政権運動と第一次大戦に揺れる激動の時代、「捨てられたことば」の蒐集に生涯を捧げた女性を描く。



『家の本』

アンドレア・バイヤーニ／著 栗原 俊秀／訳 白水社 2022

記憶にある最初の家、放課後に通った同級生の家、重苦しかった親戚の家、学生仲間の散らかった家、新しい家族を築いた希望に満ちた家などが、そこにいた人々とともに思い浮かんでくる。家々が語る、「私」の人生の光と影。



©JTBパブリッシング

